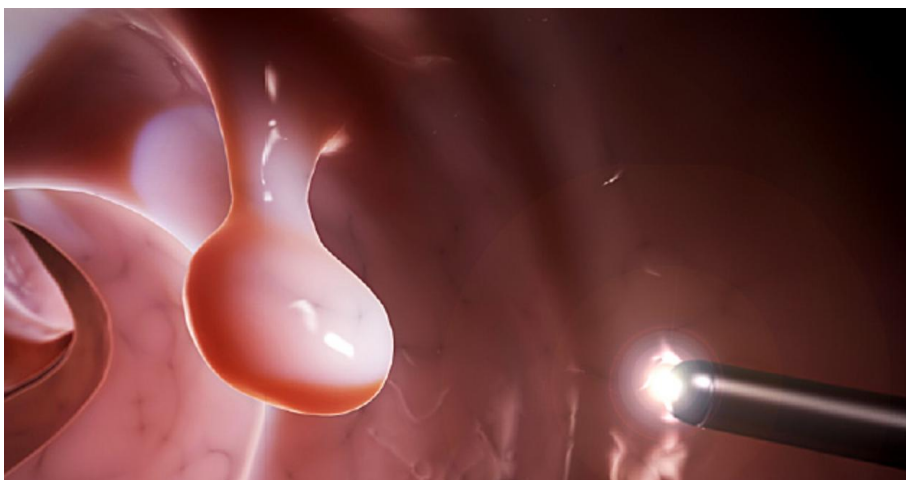


大腸内視鏡検査異常なしの 10 年後大腸がんリスク

大腸内視鏡によるスクリーニングで異常なしと判定された人の、その後の大腸癌発症リスクと大腸癌による死亡のリスクを、スクリーニングを受けていない人と比較した結果、10 年後以降も、大腸癌発症リスクと死亡リスクが低かったという結果が JAMA Intern Med 誌に掲載されました。



大腸内視鏡スクリーニング陰性群の大腸癌発症のハザード比は、1年目が0.05、10年目は0.54、大腸癌死亡のハザード比は、1年目が0.04、10年目は0.12でありました。

